

RIZIN KIDS DANCE GP 2022 準優勝

輝いています

ひと

小林 実空 さん

見る人の心はずませるダンスを



ターンを披露する小林さん



▲蜘蛛女をイメージ

日 本一のキッズダンスチームを決めるコンテスト「RIZIN KIDS DANCE GP 2022」第2中学校1年生の小林実空さん(12歳・北町4丁目)は、「Yuki HipHop」の選抜チームの一員として出場し、準優勝の快挙を達成しました。幼い頃から踊りが好きで、小学2年生のときスクールの見学に訪れた小林さん。力強く踊る姿に心奪われ、すぐに入会を決めます。しかし、程なくコロナ禍になり、思うように練習ができない日々。そんな中でも先生が出す課題に必死に取り組み、技術と表現力を磨いてきました。

その努力が実り、おとし4月に小学生5人組選抜チーム「Growth」の一員に。体の一つ一つの部分を独立させて動かす「アイソレーション」など、家でも個人練習を繰り返します。また、ムードメーカーの小林さんは、自ら積極的に提案したり、仲間の相談に乗ったりしてチームの団結を深め、演技のシンクロ性も高めていきました。そして迎えた昨年大みそかのコンテスト決勝大会。全国から動画審査を突破し、予選大会を勝ち抜いた9組が集結しました。TRFのSAMさんが審査員長を務める緊張の場面の中でも、小林さんたちに焦りはありません。指先から足先まで自在に操り、絡みつくようなダンスで、ミスティアスな「蜘蛛女」の世界観を表現しました。息の合った堂々とした演技で結果は準優勝。会場をとりこにしました。「中学生の部になります、今年こそ優勝します」と意気込む小林さんの課題は、力を抜く技術。力強さとの緩急を表現するのが目標です。今後、尊敬する先生や仲間と楽しく踊り続け、見る人の心を躍らせていくことでしょう。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

—No.84—



暁斎筆「東海道 高輪牛ご屋」
文久3年 大金板 大判錦絵

本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

文久3年(1863)、徳川幕府第14代將軍・家茂が東海道を通って江戸から京都へと向かいました。本図はこの上洛にちなみ、総勢16名の絵師が作画した合作錦絵「御上洛東海道」シリーズの一図で、当時、大木戸が設けられていた高輪が描かれています。往来で低頭する人々がいる一方、手前では子どもが牛の背に乗って壮麗な行列をのぞこうとし、大人たちは我関せずと働いています。扉の内と外との対照を鮮やかに描き出した、暁斎の機知に富んだ作品です。

河鍋暁斎記念美術館 開催中

企画展「御上洛東海道」シリーズ出版160年記念
暁斎の「東海道」展
同時開催 特別展「狂斎画譜」の世界」展

開館 午前10時～午後4時
休館 火・木曜日(祝日除く)、毎月26日～末日
ところ 南町4-36-4
入館料 一般600円 高校生・大学生500円
小・中学生300円 65歳以上500円
※65歳以上は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください
詳細 同館 ☎441・9780



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)



詳しい内容は美術館のホームページを御覧ください